



年間第 2 主日 (ヨハネ 2:1-11)

このぶどう酒がどこから来たのか

降誕節から年間の主日に移りました。3月には四旬節に入るので、それまで、短い「年間の主日前期」と呼ぶことにします。年間の主日前期が終わると、四旬節と復活節です。ですから「年間の主日後期」は、復活節のあとからです。

「聖書と典礼」の表紙をご覧ください。「年間第2主日」となっています。年間第1主日という冊子は無かったはずですが、なぜ年間第2主日から始まったのでしょうか？それは、過ぎた1週間が、年間第1週だからです。

教会の暦、「典礼暦」はガチガチに凝り固まった暦ではありません。例えば日本の祝日も、移動したり振り替えたりすることがあります。来年のことを一つだけ取り上げておきましょう。来年の神の母聖マリア1月1日は日曜日です。御公現の祭日は1月8日の日曜日です。

では主の洗礼の祝日は？このような暦の年は、主の洗礼は御公現の翌日、月曜日に祝われます。ご紹介したとおり、典礼暦はまるで生き物のように、やって来る一年にダイナミックに適応して祝われるのです。私は司祭として過ごす中で典礼暦のことをこう考えました。「典礼暦は暗記するものではなく、生きるものなのだ」と。

福音朗読に入りましょう。「カナでの婚礼」が朗読されました。水をぶどう酒に変える奇跡が行われました。私は、ぶどう酒を運んだ召使いについて「このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかった」(2・9)この点について考えてみたいと思います。

召使いが水がめからくんで宴会の世話役に運んだのですから、運んだ物は何の変哲も無い水だったはずですが、しかしそれがぶどう酒に変わりました。しかも、最上のぶどう酒に変わったのです。この奇跡に何が関係しているのでしょうか。

何か、イエスが水に触れたとか、言葉を唱えたとか、そういう書き込みは全くありません。それでも、イエスが何らかの形で関わったから、水がぶどう酒に変わったはずですが、指一本でも動かしたとか、何かしぐさがあったのでしょうか？残念ながらそれはありませんね。

ではイエスはどのように関わったのでしょうか？大切なことを見落としていたかも知れません。イエスがこの婚礼に出席しておられることです。イエスがその場におられるという事実です。この事実こそが、水をぶどう酒に変えるのです。

イエスの奇跡にははるかに及びませんが、私たちは生活の中で似たような経験をしています。特別な料理でもないのに、料理をおいしくいただいた経験はないのでしょうか？それは、料理は特別でなかったかもしれないけれど、一緒に食べた人との時間が特別だったので、おいしくいただけただけなのではないのでしょうか？しばしば食事は、誰と一緒にいてくれ

たかで、違ってくるものです。

カナでの出来事も、イエスが婚礼の席にいたことで水がぶどう酒に変わったのです。実際にぶどう酒に変わったのでしょう。仮に水のままであったとしても（実際にはあり得ないことですが）、その水は今まで飲んだことのない、おいしい水に変わっていたのです。

「イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。」(2・11) イエスがその場におられるだけで、水はぶどう酒に変わります。ただの水、何の変哲もないものが、価値あるものになるのです。

これは、私たちにとっても「しるし」となります。私たちの中にイエスがおられ、イエスと共にいることを信じるなら、私たちの中で奇跡が起こりうる、ということです。いつもと変わらないもてなし、毎日の小さな犠牲、もっと言うと意味の見いだせないことさえ、価値あるものになるのです。イエスがそれらを変えてくださるのです。

先週は主の洗礼の祝日でした。イエスが洗礼をお受けになってから、それまでの悔い改めの洗礼に代わり、「聖霊による洗礼」に代わりました。カナの婚礼では、水がぶどう酒に変わりました。出エジプトの出来事を思い起こす食事だった過越の食事は、死から復活の栄光へと過ぎ越す食事に代わりました。イエスの十字架の奉献によって、死は滅びではなく、新たな命への門となったのです。

「このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかった」(2・9) 私たちは今日、喜びをもたらす「ぶどう酒」がどこから来たのか、知る者となりました。私たちは喜びの源が、イエスが私たちと生活を共にしてくださることにあると知りました。

しかし物語の中で、世話役はぶどう酒がどこから来たのか知りませんでした。今も、コロナ禍にあっても喜びが与えられると知らずに生きている人がいます。共にいて、喜びを与えてくれるイエスを知らない人がいます。私たちはその人たちに、ぶどう酒を運ぶのです。

イエスがその場にいてくださること。イエスが共にいてくださると信じること。これが奇跡を起こす力です。もっと、イエスがそばにいてくださることを信じる信仰を育てましょう。私たちに奇跡は起こせませんが、共にいてくださるイエスは、必要なときにためらうことなく奇跡を起こす方なのです。私たちはイエスというぶどう酒を運ぶ人なのです。